

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572212264		
法人名	有限会社ワイケイ企画		
事業所名	グループホーム愛寿苑		
所在地	秋田県山本郡三種町鶴川字無頭 57-1		
自己評価作成日	令和2年11月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様本人に、可能な限り自然な形で、ゆっくり生活して頂くのを目標と考え、本人の自主性も可能な限り優先し、無理強いせず、その日その瞬間の利用者様の行動や言動に、柔軟な姿勢で対応するため、担当利用者をもたない形態で介助し、常に全員の癖や性格、行動の把握に努め、本人になって考え(エンパシー)で介助させていただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和4年12月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定期的に「利用者意向調査」や「家族の意向調査」を行い、個々の望む生活について把握するよう努めている。言葉などで意見を伝えることが難しい利用者については、「こちらから聞いた事にうなずいた事のみを判断して記録」しており、表情や普段の様子などから思いを汲み取るようにしている。支援学校の学生を実習生として受け入れている。現在3年生の生徒が2年生の時から実習を開始し、卒業後に就職する事が内定している。利用者が生きがいを持って生活を送ることができるよう、職員は一人ひとりの性格や行動を把握して個々に合った役割を探るように努めている。コロナ禍でも地域との交流や外出など、継続出来ることを考えながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、玄関・ホール・事務所で、常に誰でも見れる様に掲示している	ホームの立ち上げから5～6年後に、職員全員で見直し、作り直した。事業所独自の理念は、利用者の家族の方が書いたものを玄関に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティア団体等から慰問してもらったり、レクリエーションで地域施設を利用したり、苑を認知してもらえるようにしている	管理者が町内会で苑の説明をすることで、地域貢献やPRに努めている。また、天気の良い日はベンチで日向ぼっこをしている所に、地域の方が野菜などを届けてくれ、そこで会話をするなど、地域と少しでもつながりが持てるようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域コミュニティセンターの花壇の手入れ(花植え・草取りなど)を自治会から請負うなど、利用者様の地域貢献を考えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	あまり開催出来ていなかったが、委員も決まり徐々に開催できてきた	新型コロナウイルス感染症予防のためと日程調整が困難な事から積極的な開催が難しい時期もあったが、書面開催に切り替えたことにより、定期的な開催ができるようになった。会議内容は家族にも報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談支援センター、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターにホームの実情・空き情報を提供する	生活保護受給者が3名おり、市の職員と情報共有が図られている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在、身体拘束は行う必要が無くおこなっていない。利用者様やご家族・地域の方々にもたらず印象、閉塞感などデメリットを認識、理解し、日中の施錠は行わない	身体拘束排除委員会が設置されており、定期的な開催し、毎年研修を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者が研修会等に参加した際、ミーティングで全職員に報告している。また、必要とあらばご家族に活用いただける様支援する		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能ならば、ご本人にも参加頂き、丁寧な説明を行い、個々の立場にたつて解かり難く、不安が生じていないか確認しながら契約している		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご意見・要望・不満等を引き出せる様、利用者様とご家族に、意向調査を行い、速やかに対処し、運営や計画作成に活かしている	定期的に「ご家族意向調査」と、「利用者意向調査」を行い、対応している。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	ミーティングなどの機会に実施している。運営に関すること、利用者状況、サービスの実情に関して、必要時、職員の意見の聞き取りをしている	休憩はきちんととれるようにシフトの時間調整を行ったり、休憩室にエアコンを設置したり、ゆっくり休めるようベッドを設置したりと、職員からの意見を適切に反映させている。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県グループホーム協会に加入し、出来るだけ研修参加や同業者との交流する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、ご家族同伴で、ご本人と必ず面談を行い、出来る限り本人の状況、訴えやご家族の希望を聞きとるようにしている		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に、面談を必ず行い、ご本人を含め関係者から出来る限りの状況、訴えを聞き、本人の前では話しにくい事もあるため、ご家族意向調査の記入もお願いしている		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの理念を目標に、人生の先輩として敬意を払いながら、共に楽しみ、笑い、また哀しんだり、自然な形で「共に生きる」姿勢を心掛けている		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時やケアプラン作成時、また面会時、本人の生活を共に支援していく対等な関係を築けるよう努めているが、一緒に本人を支えて行く気持ちの大きさは家族により差がある		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの店(理容店、店等)へ外出、ご家族が入所している他施設への訪問等を支援している。また、入所前からのかかりつけ医に通院継続している。外出時に知人と会った時、職員は出来る限り会話の場が持てるよう、時間や立場に配慮をする	コロナ禍でも面会中止にはせず、その時々々の情勢に合わせて対応出来る事を模索している。面会時は個室を用意しアクリル板を設置したり、玄関の窓越しに会えるようにしたりと工夫しながら、交流の機会が途切れないよう配慮している。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人どうしの居室の行き来や、利用者間の意思疎通・コミュニケーションを図るため、間に入り良好な関係となれる様にさりげなく配慮している		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の間に培われた関係性を大切に退去後も、気軽に相談頂きたいことを伝えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	本人意向調査をもとに、普段の何気ない利用者様同士の会話から、考えや希望を聞き取り、思いや暮らし方の希望に添えるよう努めている	マニュアル通りではなく、個々の動きに柔軟に対応することを大切にしている。普段の行動をよく観察し、表情等から「何をしたいか」「何が好きか」を把握し、職員間で情報共有しながら支援に繋げている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規で利用される方に関しては、ご家族からあらかじめ生活史を出来る限り記入して頂き、情報収集・把握に努めている		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	作成前の面談や電話等で家族と話し合いをしている。また、書面(ご家族意向調査)にて意見・要望を把握している。入所後は、本人の意向調査を職員にも行ってもらっている	利用者個々の意見を聴く時は担当制ではなく職員が交代で話を聴くことで、多角的に情報を得ることができるようになっている。それらを元にケアマネジャーがアセスメントを行い、担当者会議を開催しながら介護計画を完成させている。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別記録・情報は常に記入・共有し、計画作成に生かされている		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を利用する意志がある利用者様が少なく、利用は減っているが、時折情報を伝え、利用できることも伝えている		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に利用前からのかかりつけ医の医師による医療を継続しているが、ご本人やご家族の希望で、病院の変更や、往診も医師と相談している	入所前からのかかりつけ医への受診を継続しており、基本的に職員が対応している。かかりつけ薬局は1か所、一包化等の希望にも応じてもらったり、配達依頼を行ったりと良い関係が築かれている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師が勤務していない為、かかりつけ医への相談・健康管理を主に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院による心身の大きなダメージ、ストレスや負担を軽減するため家族と相談しながら医療機関との話し合いの機会を持つ様支援している		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、今のところ前例は無いが、指針を作成し、安心と安全を確保し一日でも長く暮らすために、医師の指示のもと、苑全体で協力して支援する	重度化したときは、事業所としてできる範囲の支援を行うが、看取りは行っていない事を、契約時に説明している。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	なるべく二年に一度、消防署による救命救急講習受講を、職員全員が受講出来る様に配慮している		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を行っている	今年度初めて地震想定での避難訓練を行った。有事に備え、地域の人々が作ってくれた防災頭巾がホールに準備されている。町内会会長等も協力員となっており、地域との協力体制が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域ならではのなまり言葉を大切にしている。プライバシー保護の研修を元に、利用者様一人ひとりの性格・プライバシーを尊重し、対応を心掛けている	家族からの要望で、運営推進会議に載せる写真を小さめにするなど心にかけている。また、通院の介助の時の本人への対応も、嫌な思いをしないよう配慮し、制服は無く私服で対応している。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望にあわせて、馴染みの理容店・美容院等の利用支援をしている。ご本人、ご家族と相談しながら、店側の理解・協力も得ている。また理容師資格を所持している職員がいる為、希望があれば、苑内でも介助できる		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のADLや体調を考慮し提供している。また、準備・後片付けは、身体的に可能な方と一緒にしている	いつも箸を使用していても今日は思うように進まないようであれば箸以外に切り替えたり、食事の形状も個人の状態に合わせて、その時その時の状況を見ながら都度対応している。食材は近所の人からもらった物も多く、季節感が感じられる。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの指示など、一人ひとりに合わせた支援をし、個々のおおよその一日の水分摂取量、食事の摂取量を記録している		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄や口腔ケアの声掛けを、個人に合わせて行っている。口腔ケアの重要性を理解し、本人の習慣や有する力を活かしながら、毎食後口腔の状態を良好に保つ支援をしている		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁等の場合は、トイレまたは自室へ誘導し、羞恥心やプライバシーに配慮している。排泄の失敗をなくす対策ではなく、ご本人の希望や要望など、気持ちと生活を重視した支援に取り組んでいる	本人の表情や行動を見て一人ひとりに合った時間で誘導している。リハビリパンツやパッドの付け方等、細かい所まで職員間で話し合いながら、個々の状態に合った支援を模索し実践している。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使い把握し、個人のペースに合わせたトイレ誘導や薬の内服、また、個々のADLに合わせて、軽作業を勧め、身体を動かさず働きかけに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意志を尊重するが、よく希望する方と、あまり入らない方に偏りがある。前日未入浴者を優先しているため、希望にそえない場合もあるが、説明し納得頂いたり、日時をずらして対応している	毎日入浴準備をし、一人につき週2回は入浴して頂けるよう配慮している。一人ひとりの好き嫌いや季節に合わせた声掛け等、誘導の仕方も工夫している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休んでいただける様、職員の出す音に気をつけ、室温や明かりの調整など、個別の対応も考慮し、支援をしている		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬写真の説明の理解に努めている。また、飲み忘れや誤薬を防ぐため、薬のチェックを3回(薬箱に入れる時・出す時・服薬前)行い、薬に対する意識を高めるよう努めている		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・趣味など、生活経験に配慮しながら得意分野や楽しみ・役割・活躍できる場面を見出すような配慮をしている。また、嗜好品に関しても、ご家族と相談し、本人の希望に添える様、働きかけている		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望によりご家族に相談または、協力によって外出支援を行っている。その日の利用者様の予定(受診・身体の状態など)により行えない時もあるが、その場合は、後日対応をしている。普段は主に外気浴・散歩などの外出支援、声掛けを積極的に行っている	近所を散歩したり、天気の良い日は外でコーヒーを楽しんだり、今出来る事を模索し実施している。コロナ禍で外出が難しいため、通院の帰りに食べたい物や衣類の購入時間を設けるなど、少しでも外出ができるよう支援している。	コロナ禍の中でも無理せず出来る事を継続していく事に期待する。
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金以外に、希望者にはご家族と相談し利用者様自己管理のお金を持てるように支援している。個々の希望や力量にあわせて、ご家族からの協力・理解を得ている		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ガチャガチャうるさく、混乱やせん妄(不穏)に繋がらないように掲示物等に配慮し、臭いについては、各個室・ホール等には24時間換気システムを設置し、共同空間には、プラズマイオン発生器を設置し、ホール内の空気清浄と脱臭を行っている	転倒防止のためソファやテーブル、畳等の配置を工夫し、手で触って歩けるように動線を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の居室への行き来があり、限られたスペースではあるが、畳・ソファ等を設置して、職員に気を遣わずに、落ち着ける空間作りに工夫をしている。また、居室からの無理なホール誘導はしないようにしている		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様の家と言う感覚で介助を行っているため、不用意な入室は控えたり、落ち着いてゆっくり出来る様に配慮している。また、今まで使い慣れた家具や物品、思い出の品物を出来る限り持ち込んでもらっている	入室時は必ずノックし、本人が居るとき以外には入らないようにしている。各居室は自分だけの部屋であり、本人不在時は絶対に誰も勝手に入らない、という安心感を持ってもらえるように支援している。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADL状態に対応出来る様、苑内全てバリアフリーにし『手すり・滑り止め床』を随所に配置し、場所によっては、目立つ色にしたり、安全に配慮している		